

阪南市子育て拠点再構築方針(素案)に対する意見と市の考え方について 【保護者等説明会】

【説明会の開催状況】

- 日 程 : 令和元年8月17日(土)から8月24日(土) の間で計6回
- 開催場所 : 尾崎幼稚園、はあとり幼稚園、朝日幼稚園、尾崎保育所、市役所(2回)
- 参加者数(延べ人数) : 63名
- 意見等の概要と市の考え方 : 下記のとおり

番号	意見等の概要	市の考え方
1. 全体的な意見等について		
1	市長が代われれば、この計画が大きく変更となるのか心配です。	本方針により、子育て拠点再構築を進めます。
2	令和4年度という年次は決定ですか。	尾崎地区に新設する民間認定こども園は、令和4年4月の開園をめざし、運営主体となる事業者の募集を進めます。また、はあとり幼稚園と朝日幼稚園の統合は、令和4年4月とし、統合先となる、はあとり幼稚園の施設整備などを進めます。
3	第2ステージはいつになるのですか。	令和5年度以降とし、第1ステージの進捗状況や財源確保、社会情勢の変化等を見極め進めます。
4	予算の確保についてはどのように考えているのですか。	整備費、運営費とも民間で整備する方が財政的には市の負担は少ないと考えています。必要な改修等につきましては、行財政構造改革プランの中で十分に実現できるものと考えています。

5	<p>施設整備が、あるところは「公立」で、あるところは「民間」と分かれています。その理由は何ですか。 公立は出来るだけ少ない方が良いという主旨の再構築なのですか。</p>	<p>尾崎地区に新設する認定こども園は、早期の施設整備を図ること、及び持続可能な行財政運営の観点から、民間とします。 はあとり幼稚園・まい幼稚園は、それぞれ市の東部・西部における保護者の選択肢として、公立とします。 下荘地区に整備する認定こども園は、要財源確保の上、公立とします。</p>
6	<p>子どもたちの幼児教育や人間形成の中で大事な愛着関係などを考えると、少人数制が問題とは言い切れません。統合ではなく、少人数制で行き届いた運営をしてほしいという声もあります。財政的な事情はあるとは思いますが、子どもたちの教育・保育にとって何が一番大事なのか考えてほしいです。</p>	<p>平成31年3月の阪南市子ども・子育て会議の答申「就学前の教育・保育・子育て支援のあり方について」を踏まえています。 今後、公立園所の再構築計画による、安全安心で快適な教育・保育を受けることができる施設整備とあわせ、本市の特色を活かした教育・保育の継承・充実、公立・私立の園所が担ってきた役割を踏まえ、全ての子どもの健やかな成長を支えるための環境整備、身近な地域での支援を進めます。</p>
7	<p>ソフト面の取組みを大事にしてもらいたいと考えています。公民問わず、地域との繋がりを大事にしてもらいたいです。</p>	<p>ご意見の主旨を踏まえ、今後とも地域の皆さんとのつながりを大切に、就学前児童の教育・保育に取り組めます。</p>
8	<p>保育ニーズが高まっている一方で、幼稚園は教育を重視していると思います。認定こども園になれば、幼稚園の児童は短い時間を、保育所の児童は長い時間を預かることになり、どうしても差が生まれると思います。その対応も含め、幼稚園、保育所がどのように変わっていくのかを知りたいです。</p>	<p>認定こども園についても、現在の保育所同様、保護者の就労等と併せて、個々に送迎時間を設定することとなります。 幼稚園は幼稚園教育要領、保育所は保育所保育指針、幼保連携型認定こども園は幼保連携型認定こども園教育・保育要領に従い、教育・保育を実施しておりますが、これらの要領等は、一定の統一化が図られていることから、大きな変化はないものと考えています。</p>
9	<p>ラウンドテーブルについては、官民で定期的の実施していくのですか。そこに保護者の意見も入れてほしいです。</p>	<p>現在のところ、公立幼稚園、公立保育所、私立幼稚園、私立認定こども園と考えていますが、今後、進捗にあわせ、創意工夫をしていきたいと考えています。</p>
10	<p>公立幼稚園では、保護者同士の横のつながりや、保護者と他の子どものななめのつながりがあり、卒園後も大切だと考えています。そのつながりはどのように再構築されるのですか。これからは、曜日や時間帯問わず、親子同士が関わる場所がもっと必要になると思うので、考えてもらいたいです。</p>	<p>サークル活動を含めた様々な活動の中で、保護者同士がつながっていると認識しています。児童数が減少している中で、このつながりは密になっているのかもしれませんが、規模は縮小しています。統合により、児童数が増加することで、規模は大きくなると捉えています。</p>

2. 尾崎幼稚園・尾崎保育所の再構築計画について		
11	尾崎中学校用地は、阪南市総合防災マップ上、津波浸水想定区域に位置しており、男里川の側ですが、大丈夫ですか。また、そのような場所に尾崎地区の認定こども園を整備するのはなぜですか。	尾崎中学校用地は、阪南市総合防災マップでは、一部が津波浸水想定区域として着色されていますが、現地確認から、「津波の心配が想定されていない区域」であると考えています。また、男里川の想定氾濫区域には含まれていません。
12	公立と民間では、費用負担は変わらないのですか。	公立保育所と私立認定こども園で、保育料の差はありません。実費徴収部分については、提供される教育・保育サービスに応じた費用負担であることから、施設により違いが生じます。運営主体の募集にあたっては、ご意見も踏まえ、応募団体の実費徴収の考え方について、募集要領に取り入れるよう、考えています。
13	統合先の園しか選択肢がない保護者には、選択肢がないまま高い費用負担を求めめるのですか。	公立保育所及び私立認定こども園は、園区という概念がありませんので、市内全ての保育所又は認定こども園を選択・希望することができます。（公立保育所を選択・希望された場合、費用負担はこれまでと変わりません。）
14	尾崎地区の認定こども園は公募により民間を募集することだが、民間は運営方針がしっかりしていると思うので、保護者や公立施設等の意見を取り入れてくれるのか心配です。民間運営になると、果たして質の良い保育サービスが提供できるのですか。	公立・民間の各園所は、これまでも連携・協力し、就学前児童の教育・保育に取り組んでいます。また、施設の類型により、教育・保育要領等は異なりますが、それらも一定の統一化が図られています。運営主体の募集にあたっては、ご意見も踏まえ、応募団体の公民連携の考え方等について取り入れるよう、考えています。
15	民間の認定こども園の教育・保育内容について不安はありませんが、公立が民間になることが不安という意見があるのだと思います。費用も含めて公立と民間の違いや、その違いの解消法等を明確にしてもらいたいです。	費用負担については、12のとおりです。保育継承への保護者の不安の解消については、西鳥取保育所民営化時の事例等を参考に、新しい運営主体と協議します。
16	統廃合の時期に尾崎幼稚園に通っている子どもは、希望すれば新しい認定こども園に必ず入れますか。	新しい運営主体と協議します。
17	支援の必要な子どもへの対応はどのように考えていますか。	新しい運営主体と協議します。民間での対応が難しい場合は、公立施設で対応します。

3. はあとり幼稚園・朝日幼稚園の再構築計画について		
18	<p>はあとり幼稚園では、駐車スペースが足りていません。今後児童が増えることにより、さらに不足し、トラブルが懸念されます。体験入園等で用意されている駐車場はありますが、そこから徒歩にて幼稚園まで通うのは、危険であります。対応をお願いしたいです。</p>	<p>課題は認識しています。近隣の学校の使用も視野に入れて考えていきます。</p>
19	<p>はあとり幼稚園の工事はどういう工事を予定していますか。施設を建て替えるのですか。</p>	<p>施設の建て替えではなく、耐震補強工事や雨漏りの防水工事、エアコン設置等を予定しています。 小規模な修繕等は随時実施していきますが、大規模な工事は令和2年度に設計し、工事自体は令和3年度に実施する予定です。</p>
20	<p>令和2年度の入園について、元々の尾崎幼稚園区に住んでいる場合、尾崎幼稚園かはあとり幼稚園のいずれかを選択できるとのことですが、どちらを選択しても通園バスの対応はできますか。</p>	<p>現在、通園バスが4台あり、2台がまい幼稚園区を、2台が尾崎・はあとり・朝日幼稚園区を巡回しています。運用については十分対応できると考えています。</p>
21	<p>令和4年度に年長となる子どもがいます。令和3年度に朝日幼稚園への入園を受け入れるのであれば、希望としては、そのまま卒園できるよう配慮してほしいです。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
22	<p>朝日幼稚園は近くに小中学校があり、良い環境だったのに残念です。公立幼稚園以外を検討する時間が少ししかありません。</p>	<p>朝日幼稚園とはあとり幼稚園の統合は、阪南市小中学校及び幼稚園の整理統合・整備計画の中に位置付けております。統合年度のお示しは遅くなりましたが、公立幼稚園に限れば、(9月からの)園児募集以後でも申込みができますので、ご判断ください。</p>

4. 石田保育所・下荘保育所の再構築計画について		
23	<p>下荘保育所も尾崎保育所同様、地震や津波の問題がありますが、第2ステージまでそのままの場所に置いておくのはなぜですか。</p>	<p>下荘保育所は、大阪府より資料提供のあった時点では、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域に含まれるとの考えを説明していましたが、阪南市総合防災マップ、また、周辺の地盤高等を精査した結果、津波の心配が想定されていない区域と判断しています。</p>
24	<p>石田の借地料はいくらかかるのですか。また、今借地料の支払いを求められていないのに、なぜ今後支払う可能性があるのですか。</p>	<p>毎年、大阪府より行政財産使用許可を受け、許可条件のひとつである借地料(使用料)も、毎年、免除申請により、免除となっていますが、今後は認められない可能性があります。</p>
25	<p>石田保育所と下荘保育所の統合について、新築し、既存の施設はなくすのですか。</p>	<p>両所を統合し、下荘地区で整備します。</p>
26	<p>石田保育所と下荘保育所は公立の認定こども園になりますが、距離的に離れた保育所同士を統合するのはなぜですか。</p>	<p>両所とも老朽化が進んでいることや公立の役割などを踏まえ、それぞれ個別の整備ではなく、両所を統合し、公立の認定こども園として新設するものです。</p>
27	<p>石田保育所の子どもたちはどの地域から通われていますか。</p>	<p>市域全域からの登降所ですが、そのうち、東鳥取地域の府道と歌山阪南線より山側が、約80%です。</p>
28	<p>石田保育所の近くの民間の認定こども園は定員がいっぱいと聞いています。石田保育所が下荘保育所と統合した時に、東鳥取地区の保育ニーズは民間に任せることは可能なのですか。</p>	<p>就学前教育・保育の量の見込み及び確保方策は、子ども・子育て支援事業計画により、定めています。 現在、令和2年度を開始年度とする第2期子ども・子育て支援事業計画を策定中ですが、量全体としては確保できるものと考えています。</p>
29	<p>地域は、子どもたちのことを考えています。幼稚園・保育所・認定こども園の数が減ると地域のつながりが希薄になります。下荘保育所は潮騒が聞こえる全国でも珍しい保育所です。地域との繋がりを大切にして頂けるよう、最大限に努力してもらいたいです。</p>	<p>ご意見の主旨を踏まえ、今後とも地域の皆さんとのつながりを大切に、就学前児童の教育・保育に取り組めます。</p>

5. その他		
30	パブリックコメントの意見や説明会での意見はどう取り扱われますか。	パブリックコメント及び説明会でのご意見は、市の考え方とあわせ、市ホームページ等で公表します。
31	なぜ、説明会が今なのですか。去年の段階で説明すべきだったのではないですか。令和4年度での統合はいつ決定したのですか。	9月から公立幼稚園の園児募集が始まることなどを踏まえ、本年7月に統合時期を決定し、説明会を開催することとしました。
32	廃園される幼稚園等について、統合後の利活用は決まっていますか。私の希望としては公園にしてもらいたいです。	今後の検討となります。
33	この再構築に伴って、小中学校区の見直しはありますか。	現在のところ、予定はありません。